

①吉田地区の現状 - 人口・拠点施設

- 担い手組織

人口：961人
(2018年住民基本台帳)
高齢化率：47.97% (〃)

拠点施設：吉田交流センター
商店：あり
学校：あり (吉田小学校・吉田中学校)
郵便局等の公共施設：あり
雲南市中心部への距離：
約20分 (自動車)

吉田地区振興協議会

- ・ 地区計画の更新時期を迎えている
- ・ 子どもの見守り活動や、生涯学習等の活動に熱心
- ・ 地区内の各種団体と連携し、攻めの地域づくりを推進する地域協議会「よしだ円卓会議」を有する
- ・ 「たたら」の文化遺産を活用して関係人口拡大、観光振興等に取り組む

②吉田地区の課題

□新しい地区計画策定に向け、住民アンケートの実施、自主組織の事業の棚卸し等を、年度初めに計画。これらの結果を拠りどころに、新たな地区計画の策定と、推進体制の整備に取り組む。

③支援状況

全住民アンケート作成・集計・分析支援：

- ・ 自主組織の事務局や3部会の幹部が出席する「役員会」を通じてアンケート結果を分析

計画・体制づくり支援：

- ・ 部会ごとの事業の棚卸し、町部を中心に住民の意見交換会、「よしだ円卓会議」文化班の枠組みでの地区内各団体との意見交換会等の実施支援

④成果見込み

全住民アンケート作成・実施

- ・ 自主組織の活動コラムを入れ込み、個々の活動の認知度や評価を問う設問を中心に構成
- ・ 12月から1月に掛けてアンケートを実施、2月に集計、3月に結果の共有会議を開催

話し合いの場：

- ・ 部会ごとの事業の棚卸しで、「今後の長期テーマとして移動支援が重要」「空家対策が課題」など、次年度に地区計画を検討する上での重要テーマが把握できた

⑤残る課題

(1) 地区計画の策定

- ・ 平成30年度に出そろった検討材料 (アンケート結果、事業の棚卸し結果など) をもとに、新たな地区計画を具体的に検討

(2) 事業推進体制の見直し

- ・ 新たな地区計画をどのように推進するか、現行の体制がやや硬直しているため、本格的な見直しが必要と思われる

乗り越えるには？

吉田地区はこれまで、各部会の事業推進の在り方がマンネリ化していたため、次年度には部会の運営方法も含め、抜本的な見直しが必要と思われる。その上で、まずは部会で地区計画の内容と、推進方法について議論してもらい、それをまとめる場として、「理事会」の議論をどう活性化させていくかが、成功の鍵を握るとと思われる。

総括

- ◆ アンケート結果を踏まえた各部会での議論を、どう活性化させていくかが、次年度の大きなテーマ。
- ◆ 「攻めの地域づくり」については、地区内の多様な団体間の連携関係をさらに深め、「よしだ円卓会議」の枠組みで具体的に何を、どう進めていくかを定めることが、ポイントとなる。